



6月24日
金曜日

発行所

山陽新聞社

岡山市北区柳町2-1-1

新聞製作センター

岡山市北区新屋敷町1-1-18

備前に特殊H鋼新工場

桂スチール

鋼板を溶接して製造する特殊H鋼で国内トップメーカーの桂スチール（兵庫県姫路市）は、備前市内に新工場を建設する。全社の生産能力を約1割高め、2020年の東京五輪向けなどで建設鋼材の需要が伸びている首都圏への出荷増に対応。強度の高い極太の鉄板を自動溶接する新型機を導入し、年内の稼働を目指す。（内田光祐）

同社の製造拠点は、既存の機械で自動溶接も岡山県内にあり、備接できる板厚は最大50ミリの前市内4カ所の岡山工だが、新型機は80ミリの場と玉野工場（玉野市）溶接できるようにする。の計5工場。このうち岡同社によると、自動溶接山第2工場（備前市吉永機では国内最大の能力に町岩崎）の隣接地約76なるといい、特許を取得00平方メートル取得し、鉄する方針。もう1棟（約骨平屋の2棟を整備す1500平方メートル）は材料の鋼材などを保管する倉うち1棟（約2千平方庫に充てる。に）には、自社開発の新 近く着工し、年内に1型自動溶接機を導入す部で稼働を始め、来年秋

へ対応需要五輪 導入機溶接機 稼働一部 年内



桂スチールの玉野工場で稼働中の自動溶接機。新工場では新型機を導入する

の全面稼働を見込む。75億円弱。ル稼働後の全社の特殊H 一般的なH鋼は日本工鋼の生産能力は、現在の業規格（JIS）で形や年約8万5千トから9万大きさが定められている5千トとなる。投資額はのに対し、特殊H鋼は形

状を自由に変えられる。加工に手間が掛かる半面、溶接する鉄板を厚くして強度を高めたり、曲げたりできる。近年は複雑な形状のビルが増えている上、高層化で高強度の鋼材が求められることもあり、特殊H鋼で国内シェア4割弱の桂スチールではこの3年で生産量が7割超増えるなど高操業が続く。

同社は「生産能力の増強で需要の増加に対応するとともに、新型溶接機で他社に先駆けて高強度な製品を供給できるようにして、シェア拡大につなげたい」としている。

桂スチールは、東京スカイツリー（東京）や日本一高いビル・あべのハルカス（大阪）の構造材にも納入実績がある。1985年設立。資本金5750万円。売上高132億円（2015年9月期）。従業員約180人。